

# 令和3年度大阪大学大学院文学研究科入試案内

## 1. 制度

- a) 修士課程・博士前期課程・博士後期課程  
修士課程・博士前期課程修了後、ともに博士後期課程へ進学することは制度上可能
- b) 3つの専攻、文化動態論専攻・文化形態論専攻・文化表現論専攻
- c) 4つのコース・23の専門分野
- d) 取得できる学位、修士・博士
- e) 学費 入学料 282,000 円、授業料（年額） 535,800 円 検定料 30,000 円  
ただし、本学大学院博士前期課程または修士課程を令和3年3月に修了見込みの者が、引き続いて博士後期課程へ進学する場合は、検定料・入学料は不要です。

## 2. 入試

- a) ホームページ、大阪大学大学院文学研究科・文学部トップページ→「入試・入学案内」→「大学院関係入試」に、入学試験の種類・過去問題・合格者数・入試日程などの情報あります。
- b) 募集要項は毎年7月初旬頃配布可能、上記ホームページ「入学試験の種類」にも掲載（願書等を除く要項部分のみ）、入学試験の内容についても、上記ホームページ「過去問題」で確認可能（ただし、著作権に対する配慮から問題文の一部を省略している場合があります）。  
「過去問題」を直接閲覧することも可能です。
- c) 入試日程 一般選抜（秋期9月下旬・春期2月上旬の年2回、ただし博士後期課程は春期のみ）・外国人留学生選抜（春期のみ）・社会人特別選抜（秋期のみ）
- d) 定員 博士前期課程 75名（文化形態論 38名・文化表現論 37名）・修士課程 19名、博士後期課程 41名（文化形態論 20名・文化表現論 21名）
- e) 定員設定とは別に、入試は受験分野（専門分野をさらに細分化した 26 受験分野）・コース別に行われます。試験の内容は、募集要項や過去問題で確認できます。

## 3. 就職

- a) 平成29年度実績 博士前期課程・修士課程修了者 就職率 94.4%（就職希望者 31名）
    - ・公務員 農林水産省林野庁、東京都庁、神戸市役所、国立国会図書館
    - ・教員 大阪府、奈良県、西大和学園中・高等学校、大手前丸亀中・高等学校、
    - ・企業 NTT データ、大和ハウス工業、朝日新聞社、アクセンチュア、住友電工情報システム  
大阪府文化財センター
  - b) 平成30年度実績 博士前期課程・修士課程修了者 就職率 93.5%（就職希望者 50名）
    - ・公務員 神戸市役所、神戸市長田区役所、三重県朝日町、島根県隠岐の島町
    - ・教員 大阪府、滋賀県、岡山県、島根県、同志社香里中・高等学校、東山中学・高等学校
    - ・企業 中国電力、日本 IBM、DMG 森精機、ダイキン工業、JFE スチール、読売新聞東京本社  
東洋経済新報社、かんぼ生命保険、商工組合中央金庫
  - c) 令和元年度実績 博士前期課程・修士課程修了者 就職率 83.0%（就職希望者 31名）
    - ・公務員 裁判所、兵庫県、香川県、沖縄県、奈良県・大阪府（考古学技師）
    - ・教員 岐阜県、山口県、金蘭千里学園
    - ・企業 東芝、中日新聞社、SG ホールディングス、中小企業基盤整備機構
- おおよその傾向として、博士後期課程への進学が 50%、就職希望者の 50%が教員・公務員

4. 日本学術振興会（学振）特別研究員（博士後期課程在学生在対象となるDC1・DC2および修了生（博士の学位取得者）が対象となるPD）

- a) 日本学術振興会が、研究奨励金および研究費を支給する制度、特別研究員に採用されると、（博士後期課程在学生在対象のDC1・DC2の場合）給与（生活費）として研究奨励金（月額20万円）が支給され、さらに年間150万円以内の科研費も支給される。日本学術振興会ホームページのトップページ左側に「特別研究員」のバナー有り。
- b) 文学研究科ホームページのトップページ→「キャンパスライフ」→「大学院生のための支援」→「日本学術振興会特別研究員への申請支援と採用実績」に文学研究科の採用実績データ有り

		<b>Ⅱ. 大学院 修士課程(2年)</b>		
文化動態論専攻		共生文明論 コース		
		アート・メディア論 コース		
		文学環境論 コース		
		言語生態論 コース		
文化形態論専攻	哲学哲学史 専門分野	哲学哲学史 専門分野	哲学・思想文化学 専修	人文学科
	現代思想文化学 専門分野	現代思想文化学 専門分野		
	臨床哲学 専門分野	臨床哲学 専門分野	倫理学 専修	
	中国哲学 専門分野	中国哲学 専門分野	中国哲学 専修	
	インド学・仏教学 専門分野	インド学・仏教学 専門分野	インド哲学 専修	
	日本史学 専門分野	日本史学 専門分野	日本史学 専修	
	東洋史学 専門分野	東洋史学 専門分野	東洋史学 専修	
	西洋史学 専門分野	西洋史学 専門分野	西洋史学 専修	
	考古学 専門分野	考古学 専門分野	考古学 専修	
	日本学 専門分野	日本学 専門分野	日本学 専修	
	人文地理学 専門分野	人文地理学 専門分野	人文地理学 専修	
文化表現論専攻	日本語学 専門分野	日本語学 専門分野	日本語学 専修	
	日本文学 専門分野	日本文学 専門分野	日本文学・国語学 専修	
	国語学 専門分野	国語学 専門分野		
	比較文学 専門分野	比較文学 専門分野	比較文学 専修	
	中国文学 専門分野	中国文学 専門分野	中国文学 専修	
	英米文学 専門分野	英米文学 専門分野	英米文学・英語学 専修	
	英語学 専門分野	英語学 専門分野		
	ドイツ文学 専門分野	ドイツ文学 専門分野	ドイツ文学 専修	
	フランス文学 専門分野	フランス文学 専門分野	フランス文学 専修	
	美学・文芸学 専門分野	美学・文芸学 専門分野	美学・文芸学 専修	
	音楽学・演劇学 専門分野	音楽学・演劇学 専門分野	音楽学・演劇学 専修	
	美術史学 専門分野	美術史学 専門分野	美術史学 専修	
		<b>Ⅳ. 大学院 博士後期課程(3年)</b>	<b>Ⅲ. 大学院 博士前期課程(2年)</b>	<b>I. 学部(4年)</b>

## 大学院文学研究科

専攻	講座	専門分野・コース	教授	准教授	講師/特任教員等	助教
文化形態論	哲学	哲学哲学史	舟場保之	嘉目道人		西條玲奈
		現代思想文化学	須藤訓任	(兼) 中村征樹		
			望月太郎			
		臨床哲学	堀江剛	(兼) ほんまなほ	小西真理子	
		中国哲学	湯浅邦弘		辛賢	
	インド学・仏教学	堂山英次郎		名和隆乾		
	日本学	日本学	平田由美	北村毅		西井麻里奈
			北原恵	安岡健一		
	宇野田尚哉					
	日本史	日本史学	飯塚一幸	野村玄		北泊謙太郎
			川合康			
	市大樹					
	世界史	東洋史学	桃木至朗			
			松井太			
		西洋史学	田口宏二郎			
			秋田茂	中谷惣	見瀬悠	石田真衣
藤川隆男						
中野耕太郎						
栗原麻子						
(兼) KROZEWSKI GEROLD						
考古学	考古学	福永伸哉			上田直弥	
		高橋照彦				
人文地理学	人文地理学	堤研二	井本恭子			
		佐藤廉也				
国文学・東洋文学	日本文学	飯倉洋一	斎藤理生		尹芷汐	
		滝川幸司	勢田道生			
	比較文学	橋本順光				
	(兼) 田邊欧					
中国文学	浅見洋二			陳竺慧		
国語学	国語学	金水敏	岸本恵実			
		岡島昭浩				
西洋文学・語学	英米文学	服部典之	森本道孝	HARVEY PAUL (外国人教師)	好井千代	
		片渕悦久				
		石割隆喜				
	山田雄三					
ドイツ文学	三谷研爾	吉田耕太郎	WASSMER JOHANNES (特任講師(常勤))			
フランス文学	山上浩嗣		AVOCAT ERIC (特任准教授(常勤))			
英語学	英語学	神山孝夫	田中英理			
		岡田禎之				
日本語学	日本語学	田野村忠温	高木千恵		東条佳奈	
		石井正彦				
		渋谷勝己				
		BURDELSKI MATTHEW				
三宅知宏						

文化表現論	芸術学	美学・ 文芸学	高安啓介	田中均	西井奨		
		音楽学・ 演劇学	永田靖	渡辺浩司			鈴木聖子
			伊東信宏	輪島裕介			東志保
	芸術史	美術史学	(兼) 圀府寺司		中尾薫		(兼) 横田洋
			橋爪節也		古後奈緒子		本多康子
			藤岡穰				
岡田裕成							
文化動態論	共生文明論	共生文明論	堤研二	井本恭子			
			堤一昭				
			藤川隆男				
	アート・ メディア論	アート・ メディア論	永田靖	古後奈緒子	森村泰昌		東志保
			圀府寺司		(特任教授)		
			桑木野幸司		山崎達哉		
	文学環境論	文学環境論	平田由美	鈴木暁世			
			三谷研爾				
金水敏							
石割隆喜							
言語生態論	言語生態論	田野村忠温					
		神山孝夫					
		渋谷勝己					
		岡田禎之					
埋蔵文化財調査室			福永伸哉			上田直弥	
留学生専門教育			高橋照彦				
国際交流センター					鄭聖汝		
					SOARES MOTTA FELIPE AUGUSTO (特任助教(常勤))	LAMBRECHT NICHOLAS MAHOOD MOHAMMAD MOINUDDIN	

令和2年4月1日現在